

カジカガエル *Buergeria buergeri* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

河川工事による護岸、堰堤工事などで良好な生息環境が減少している。予定されている設楽ダム建設地は良好な生息環境であるが、建設が進めばすべて失われることになり、このような局所的な絶滅が進行すれば、絶滅危惧種に移行する可能性が高い。

【形態】

体は扁平で、背面は淡褐色から黒褐色。不規則な暗色斑紋が見られる。体長は雄で 40 mm 前後、雌で 50~70 mm 程度。指端に吸盤を持つ。後肢趾間のみずかきは発達がよく、切れ込みが少ない。雄は咽喉下に外鳴嚢を持つ。幼生は最大 44mm ほどになり、頭胴部は長卵形で、大きな口器を持つ。



豊田市 (旧旭町), 2015 年 6 月 28 日, 島田 知彦 撮影

【分布の概要】

日本固有種。本州、四国、九州に分布する。県内では三河山間部と尾張北部の一部 (犬山市・瀬戸市)。

【生息地の環境／生態的特性】

山地の川幅の比較的広い溪流と河原、樹林の林床に生息する。繁殖期は 4~7 月に溪流中で行われる。雄は瀬の水から出た岩の上に縄張りをもってフィフィフィフィ・・・と聞こえる美しい広告音を発する。産卵は水中の岩石の下で、50~80 個の卵を含む卵塊を数ヶ所に分けて産卵する。孵化した幼生は流水中の水底で、砂利や小石の間で生活し、石の表面に着生する藻類を食べる。7~8 月に変態して上陸する。河川の岸辺の浅い砂中や石の下で冬眠する。

【現在の生息状況／減少の要因】

川原のある山地河川に比較的広く分布するが、尾張丘陵部では分布地域も狭く個体数も少ない。狭い溪流には生息しない。減少の要因としては河川改修での生息環境の変化、汚濁による水質の悪化などが考えられる。

【保全上の留意点】

河川改修、砂防ダム建設等による改変、水深が深くなることによる生息域の減少。林道建設による水質汚濁には十分な配慮が必要である。

【特記事項】

Nishizawa et al. (2011) によれば、本種のみトコンドリア DNA には別種レベルに相当するほどの大きな地理的変異が確認できる。愛知県の個体群は其中で東日本に存在する系統に属し、この系統群の西限に近い、生物地理学的にも興味深い集団である。

【引用文献】

Nishizawa, T., A. Kurabayashi, T. Kunihara, N. Sano, T. Fujii, and M. Sumida, 2011. Mitochondrial DNA diversification, molecular phylogeny, and biogeography of the primitive rhacophorid genus *Buergeria* in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution* 59: 139-147.

(島田知彦)

県内分布図

